

0-32-10

俳諧資料カード

年代	後期
編者 (筆者)	松崎
書名	新題集
備考	春

(下垣内蔵)

清水松隣編

俳諧斤頁業
發句新題業

浪華書肆

四庫堂



る

そのおもひは乃際多ふ古今

糸をたぐひしきしよるまのふいふ

たふひの葉はみちのふりあはむ

まをいふもふりあはむ

あはむはむらじふはたをさへ

あはむはむらじふはたをさへ

下垣内和心
電話〇六三三三三



つるを撰次おろそくに
精撰をるはむまづ終り
るといふは秋の月由
孫子の丹丸か白ま
かあといふはささ
きいといふは新撰
まはさし

浪花の形傳之六の巻終
るはの巻は浪花を
をらんといふは
免をたに物か
係るといふは
志といふは

東のたむるにむらさきなるものあり
 けしきやなむさ乃名和のそ夫月
 湯ひるるれはむらさきなるものあり
 かゝるはむらさきのなむらさきなるものあり
 一なるはむらさきのなむらさきなるものあり

東のたむるにむらさきなるものあり

名録

山城 ○月屏 ○木海 ○鳥頂 ○十丈 ○廿亩

蒼虬 擽堂 梅價 千崖 月峰 布雪

貨傑 杜蓼 蕭堂 ○梅居 梅通 茂英

太老 夙也 犬襲 ○吳明 杜鷺 金菜

白絲女 ○寸樂 兆三 丸雅 芒雅 儿瓦

仏朝 ○其成 百地 梅陰 ○下路 ○霞軸

並陸

大和 梅日、芳華 全柳 舞六 卧壺

緩駕 月下 雪下

河内 ○來杞 來鷲

和泉 擔鷓 成風

李山 此方 此角 青芝 竿居 此風

攝津 ○木仙 ○舛七 ○大江丸 ○尺艾 ○一岫

桐栖 ○三津入 ○米彦 ○長齋 ○見譜 ○臥鷓

若助 ○魚眼 ○公水 ○福米 ○奇桃 ○奇淵

一肖 公路 岱年 井眉 昂左 秋水

天來 林曹 扇暑 釜魚 吐屑 杜枝

貞璵 呂國 井丸 其瓊 千箭 松齋

楓良 良化 鳳堂 倉 竹兒 戶江

杉院同

友之 奇調 一蕉 自樂 美崎 西月

吳老 鳴人 太乙 墨巢 印南 曲皇

文景 除全 文水 駝犬 爐雪 艸方

球麥 陽樹 已百 欽雅 一東 藍外

東泉 井作女 其鼎 瀨石 挾平 梧琴

祗白 古樂 月挂 春娥 松子 蓬雲

為声 東雨 兔六 貴水 一窟 元山

貞池 落州 素虫 蓬竹 菴女 松月

亞井 鮫齋 箕山 斯菊 魚白 湖鳥

耕春 眉鳳 五諒 臥堂 觀齋 戶江

三嘆 万雅 壽樂 正一 貞猪 秋嵐

蟻兄 佳葉 松母 文鷺 醉茶

石鼓 自龍 松隣 芳枝 雀叟 夜白

伊賀 猪來 丸松 推己 省寺 佳澤

伊勢 椿堂 昌作 雲石 雀叟 夜白

菊所 心門 兼團 法石 夜白

翠川 團紙 普品 枳園 法石 終山

梅癖 又上 普品 枳園 法石 終山

尾張 士朗 岳輅 現翁 梅間 芝石

鳥津 而右 沙鷗 月庭 我竟 書可

新秋

大巢 木天 李東 鱸齋 不轉 亂臺

呂川 宍彦 秀外 不牛

三河 秋拳 卓池 赤守 波文 塞馬

梅老 流芝 楚岳 柳涯 朱芳

甲斐 漫々 嵐外 可都里 蟹守 有斐

三石 有隣

伊豆 一瓢 有隣

相撲 雉原

武藏 三彦 成美 巢兆 蕉雨 太節

啓山 象松 長成 對山 久藏 五室

近江	常陸	下總	上總	礪山	田都喜	一具	史十	何惠	鶯笠
○千影	涼谷	○雨塘	可布	一蕙	春路	卦龍	水葉	抱義	大梅
○于當	湖翠	桐雨		楚拳	丁知	淡齋	六由	木木	玉光
閑齋		桂丸			都岐雄	國村	小圃	義歸	茶靜
士明		星谷			車西	何九	謝堂	雪雄	護物
柳也		李峰				有月	萬居	尼德	南井

少級

若狹	出羽	尾雄	陸奥	上野	信濃	飛彈	素律	虛白	春峰
雲居	太橋	雄淵	○乙二	乙人	○素壁	素明	凡鳥	楓下	舒六
逸中	○古翠	馬年	布席	茅丸	○一茶		蕙布	米友	東蒼
内海	○赫山	卓堂	巢居		若人		月坡	菊住	一嘯
	御風	仲瑠	曰人				四明	旭舟	斗行
		蕙溪	多代					申齋	栗三

越前

振々

野鶴

加賀

○布世丸

年風

馬緒

艸均

寔和

註登

晚籟

北子

樂齋

魚耳

越中

伯芝

半文

雲布

芦洲

越後

万里

武陵

俵山

湧瀧

蕉夢

丹波

野揚

獨步

芦屋

吃丸

曉堂

梅庵

風取

馬良

蕪良

魚道

招庵

月茶

丹後

○巍道

柳絮

蕪良

魚道

万籟

以

但馬

鷺橋

信蒼

艸臺

出雲

万里

崔仙

石見

北麟

一芦

播磨

○玉屑

曾夢

文鄉

丘芳

魯人

塙東

琴止

守三

艸々

茶田

美作

○屋息

七尺

石城

朝竹

備前

瓶山

備中

晋和

備後

岱雨

李朝

蕉雨

一瓢

一声

安藝

篤老

○井古

蓮史

玄蛙

河良

白泉

路宅

東陵

瑞尾

西坡

靜雨

鷺鷥

雪頂

素白

長門

羅風

陶齋

北夢

南鳳

平夷

紀伊

關那

岳齋

北夢

南鳳

平夷

淡路

李長

○岳龍

阿波

茂陵

洞居

鸞巢

讚岐

茂雖

宗德

○夢蝶

策力

今是

其岳

花明

○哉月

伊豫

擣堂

石鼎

嵐角

其梅

柴人

孫九月七

路堂

無名丸

浮舟

斷之

郊馬

吳天

二河

素亭

筑前

祖娘月

斗犬

月乎

豐前

回丸

豐後

婿葵亭

弗水

砂水

曉夢

肥前

菊也

初川

寸長

其映

肥後

仙谷

三考

寸貴

長門

汲古

月影

双鳥

壹岐

三雄

桃水

薩摩

琴洲

行脚

初六

青隱

七 青隱 石上 海

且富雪丸万外 春岱可大

仇江景句新題兼素去月錄

小松曳	新年	辰祝	蓬萊	初夢	佐保姬	正月	立春
人	萬歲	破六弓	俵子	書初門	御降初	睦月元	今朝春初
日	猿	羽子	太箸	松	為	日	春
始	御	年	雜考	門	若水	初日	花春
七	禮	御	屠	松	竊	初	春
種	御	慶	蘇	松	擗	空	明春
若	日						春

所入日八

駒鳥	下蒔	若松	青柳	梅	霞	麗	淡雪	甘芳	齋
鷺	路	木芽	梅柳	野梅	東風	陽炎	殘雪	春寒	花
鶯	草芽	若草	椿	梅月	春雲	去遊	雪解	余寒	佛坐
鶯	土筆	古草	落椿	散梅	春風	暖	涼解	深歸	左義長
貓	雲	春草	松花	柳	福壽草	水	長閑	初雪	養父
意	雀								
白魚									

五言
三

鹿角落	薺花	蒲公英	紅梅	山笑	春宵	春日	彼岸	二月	蜺
雉子	五加木	芦芽	初花	山燒	月霞	春月	水口祭	衣更著	海苔
春丁	雜菜摘	接木	初櫻	燒野	春雨	隴月	二日灸	初午	
歸丁	田打	菜花	急櫻	春水	春空	隴夜	出代	水取	
引霍	苗代	茂	連翹	春辺	春	春夜	几中	涅槃	

茶摘	山吹	桃李	散花	花雲	壬念仙	三月	田螺	曠	乙鳥
五形花	躑躅	梨子花	櫻	花曇	別霜	弥生	海雲	蜂	鳥巢
杏花	藤	海棠	山櫻	雨花	永日	草餅		蛇	雀子
若鮎	荳	木瓜花	邊櫻	花見	遲日	雞		初蛙	鳥鳴
蛤	三月菜	辛薺	散櫻	花守	花	汐干		初蝶	

新法五 二

蚕

行春 春惜 弥生尽

沈黙の白雲 題葉糸春

浪連

清 水 松 隣 編
比 長 城 東 野 校

正月

立春

立春のやうな海の向ふ路を走ると
大 梅

立春のやうな海を望むと
河 惠

立春のやうな海を望むと
松 隣

立春のやうな海を望むと
梅 室

今朝春

今朝春のやうな海を望むと
梅 室

梅 室

元日

元日や早やをさむる 木

松

元日やるを記さぬ 禊

松

世に信ハ元日を後 著

松

元日の人ともあり 海

松

是も元日なりや 地

松

元日も旅人多くあり 水

松

元日と師もて 舟

松

元日と舟もて 舟

松

未

松

未

松

新

初日

元日や早やをさむる 山の形

未

つらきそ 舟の物多き 舟

松

つらきそ 舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

舟の物多き 舟

松

佐保姓

舟の物多き 舟

松

御蔭

御蔭のやうなやうなやうな

南

御蔭のやうなやうな

北

御蔭のやうなやうな

自

御蔭のやうなやうな

御

初鴨

御蔭のやうなやうな

山

御蔭のやうなやうな

柳

若水

御蔭のやうなやうな

雲

御蔭のやうなやうな

柳

新編七

寢積

御蔭のやうなやうな

一

初夢

御蔭のやうなやうな

一

御蔭のやうなやうな

一

御蔭のやうなやうな

一

書初

御蔭のやうなやうな

一

ちめて先を... 巖蘇
 巖蘇... 水祝
 水祝... 破大弓
 破大弓... 羽子
 羽子... 羽子

新製素ノ水

御慶
 年禮
 御子... 御子... 御子...
 吹... 吹... 吹...
 吉... 吉... 吉...
 下... 下... 下...
 大... 大... 大...
 う... う... う...

赤... 赤... 赤...
 赤... 赤... 赤...
 赤... 赤... 赤...
 赤... 赤... 赤...

道云あまの情も正月小松引かた
玉房

行合つたふらふらと情を
其因

さうや情をさうさうと情を
元上

傀儡師
おつけふ牽きぬ傀儡師
其因

情をさうさうと情を
湖中

さうさうと情をさうさうと情を
心肩

さうさうと情をさうさうと情を
若切

子日
笑りぬれぬや子の力福
其因

二葉より雲をさうさうと情を
其因

かきさうと情をさうさうと情を
其因

新次郎

山くせの床さうさうと情を
其因

さうさうと情をさうさうと情を
其因

小松引
又て床さうさうと情を
其因

山さうさうと情をさうさうと情を
其因

さうさうと情をさうさうと情を
其因

人日
久の月や井井れさうさうと情を
其因

人の月や井井れさうさうと情を
其因

人の月や井井れさうさうと情を
其因

弓始
青空の輪をさうさうと情を
其因

春雪

春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと
春雪の雪は降りよと

春雪
春雪
春雪
春雪
春雪
春雪
春雪
春雪
春雪
春雪

新巻十五

淡雪

淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと
淡雪の雪は降りよと

淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪
淡雪

雪解

雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと
雪解の雪は降りよと

雪解
雪解
雪解
雪解
雪解
雪解
雪解
雪解
雪解
雪解

凍解
長閑

雪のふりや門を雀の十五日
雪のけしきやわつりく哉
雪も雪のとけしき
雪のふりや門を雀の十五日
雪のけしきやわつりく哉
雪も雪のとけしき

松
松
松
松
松
松
松
松
松
松

新刊五十六

霏
陽炎

雪のふりや船くく霧ふ鳥糞粒
雪のけしきやわつりく哉
雪も雪のとけしき
雪のふりや船くく霧ふ鳥糞粒
雪のけしきやわつりく哉
雪も雪のとけしき

後物
松白
松
松
松
松
松
松
松
松

系遊

雪のふりや船くく霧ふ鳥糞粒
雪のけしきやわつりく哉
雪も雪のとけしき

松
松
松
松
松
松
松
松
松
松

東風

東風をよそふまらるや一月味
 下まらる興を縁とくはし
 かなやふとくふまらるけふの
 灯もまたよふ風まらる中夜
 うらめしき人の境や海はみ
 初春のけふ未極るひと
 初春の風やもはる山は静か
 春風や坊の極側をえり
 つゆもまたらるては

雪の
 杜若
 十丈
 紫後
 草方
 凝去
 花飄
 汗
 夢是
 土明

春風

二月のらうらう又春風
 春風や春の歩りの
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり
 春風や鶯のむすきあり

茶
 栞
 為
 川
 新
 春
 初
 水

詩卷第十八

柳

けしきくわらわら	柳の若かりけ	慈風
柳ちりやどり	もきそはははの如	一
柳りくやま枯く	しそあきくち	益和
振筆を移く	しけり希くれ	志
若枝りもやち	希も又ふく	柳
振筆陰く	希く	と由
柳りも	希く	了也
薫り	希く	弟
ちよのり	希く	風
灯又	希く	柳

新編書廿一

あ那板の上	ま	希	く	れ	心
柳り	希	く	れ	心	肩
く	希	く	れ	心	子
半	希	く	れ	心	為
法	希	く	れ	心	白
直	希	く	れ	心	ま
活	希	く	れ	心	ま
乙	希	く	れ	心	頼
中	希	く	れ	心	下
海	希	く	れ	心	依
	希	く	れ	心	風
	希	く	れ	心	花
	希	く	れ	心	産

青柳

柳えん人そくはかりみしや
 四五人ふしりてふれて赤うれ
 いろちも急人もあぬ赤い
 青糸の存か長し又青し
 青糸の古ゆるやまや約ゆ
 青糸や鶴の拍まのつと
 青糸も在成る糸もささる
 ふとさ糸もささるしや糸
 糸髪はの純柳一つしや糸
 うや糸も糸はてり糸も

松海 奇樹 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸

梅柳

新編云云廿二

椿

月さくちの消る椿の南
 高早き椿や花さるる南
 ささるる中赤も椿の南
 丸くしてやちりさるる南
 片の赤も椿の南
 空の赤も椿の南
 町直合の赤も椿の南
 赤の赤も椿の南
 引よせも椿の南
 赤も椿の南

糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸 糸糸

サノ草

さしの草をわらわりのすゝ草の若

南丹

土筆

さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若

南丹
土筆
土筆
土筆

雲雀

さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若

南丹
土筆
土筆
土筆
土筆
土筆
土筆
土筆

新巻廿五

駒鳥

さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若

赤
赤
赤
赤
赤
赤
赤
赤

鸞

さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若
さしの草をわらわりのすゝ草の若

赤
赤
赤
赤
赤
赤
赤
赤

切帝を遊ふや浪ふじ東より
 又て所わのふもさかき一残葉
 引多却る返るそあさりのつりのあり
 空ひくも名もせも空うちりは中
 揚屋中ふまうれそさるりわか
 風中をく神すくくの浪うれ
 揚も々わかうさうや帝のま
 松皮き雪のやまもさかき
 のさかきとありまらや帝のま
 庭中の浪うれさかきやまらけ

天
 木
 柳
 那
 沙
 松
 白
 蘇
 庭

新編去二十

春月

夕影の空も志まらばささの月
 夕影と物さわかうささの月
 魚尾ま歩歩りわかうささの月
 さえうささ小ね又うささの月
 さえうささ小ね又うささの月
 山常のすけあく又甲れまの月
 入あまうささわかうささの月
 去の月移らまうささの月
 出ありのて移回智うささの月
 留あまうささわかうささの月

波
 若
 魚
 東
 桂
 幸
 山
 桂
 出
 留

月霞

月霞のしほをくやくと二階掃き

よき人のまゝをくやくと月をひき成

産屋のうらみもあつた月

春雨

秋のふたふた 春の雨をひき

しほをやくの雨をひき

藤の秋くさつとくさつと

まろむとくさつと熊のまき

強流もきせぬおのり

まろむとくさつとくさつと

きのくさつとくさつと

巻之三十四

春空

まろむの海もあつたや秋空の神
おろむとくさつとくさつと
まろむとくさつとくさつと

山の水やひきつとくさつと

波先とくさつとくさつと

春山

まろむの山はくさつとくさつと

あつた山よりおろむとくさつと

くさつとくさつとくさつと

山

くさつとくさつとくさつと

人のあつたおろむとくさつと

蓮史

子孫や家のさめくさるる 豊 子水
 有枝や孫陀りく孫人の影下 千丈
 灯の力さあさる細きこころたり 鳥貝
 幼きお母打つる恰 子又 孫物
 幼きと人の中さげあう菊 大菜
 幼きの免ひのりさるやーれ 有子
 幼きよんさるさるてお母くれ 延史
 づかりさる東さ山はよ幼き 吉劍
 吹雪の世俗人笑や幼き 柳白
 雪のささるさるて幼き 我雪

初撰

初花

新巻三十四

雲の世さあさるれもせん 幼き 乙二
 松くれさあさる幼てころさる 子崖
 ささるさるさるやさるん 幼き 吉城
 雲の孫返かりつるさる 幼き 一宵
 陣さるさるさるさるさるさる 示之
 暖りさるさるさるさるさるさる 少仙
 飛くさあさる連綿の孫さるさる 孫平
 さるさるさるさるさるさるさる 子乙
 さるさるさるさるさるさるさる 子化
 さるさるさるさるさるさるさる 黄菊

連翅

玄櫻

まらぬや葉をふつと又一つは

松海

はらりや葉をふつと

瓶山

蕨

蕨の葉も若年のつゝぬ

魚丸

蕨の葉も若年のつゝぬ

新産

蕨の葉も若年のつゝぬ

新産

芦芽

すゝやうのひかり

碧止

角細ひや

上坪

接木

背うらゝ

新産

背うらゝ

新産

肉うらゝ

而辰

出巻の巻三十五

菜花

菜の花をとり

意記

菜の花をわき

寒子

菜の花をうり

寒子

菜の花をわき

寒子

菜の花をよ

楚岳

菜の花をわき

寒子

菜の花をわき

寒子

わらうけ

鏡池

蕨

わらうけ

鏡池

申うらゝ

林彦

蕎花

蕎花の葉の甲斐のちりり

竹足

ちりりと見えてくちの葉の葉

松崎

五加木

庭の木の葉のちりり五加木

一葉

ちりりちりりちりり五加木の葉

鼎左

ちりりちりりちりり五加木の葉

穂麦

ちりりちりりちりり五加木の葉

又葉

雑菜摘

年終のちりり雑菜の葉

さも

ちりりちりりちりり雑菜摘

葉地

畑打

ちりりちりりちりり畑打

波田

ちりりちりりちりり畑打

梅花

新撰安三十八

苗代

苗代のちりり苗代の月夜

風也

ちりりちりりちりり苗代の月夜

又葉

ちりりちりりちりり苗代の月夜

鹿馬

鹿角落

ちりりちりりちりり鹿角落

梅葉

ちりりちりりちりり鹿角落

又葉

ちりりちりりちりり鹿角落

又葉

雉子

ちりりちりりちりり雉子

又葉

菓の香のさくらし〜

菓香

雀子

豫多や娘をちりくと雀の子

雀子

枝のあうさうさつと〜

雀子

雀子のさくらし〜

雀子

鳥轉

鳴くやあすけうき

雀子

鳴くやあすけうき

雀子

鳴くやあすけうき

雀子

鳴くやあすけうき

雀子

初蝶

幼てつや種初花の明〜

雀子

新巻三十九

蝶

初蝶や値又さうりか〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

ちり〜

雀子

花止入りての...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...
 花止入りて又月...

新撰書四十八

挑

木瓜花
 海宗
 梨花
 渡後の穂...
 松花
 風也
 玉光
 松花
 風也

若貼

若貼やまはさきくさくさくせんせきり

一月

蛤

蛤もあまのりや補ふやうに

波の

蚕

絹のうらめんとくさくさく

糸の

行春

春のうらめんとくさくさく

春の

春のうらめんとくさくさく

福の

新巻五十一

春惜

春惜もあまのりや補ふやうに

春の

春のうらめんとくさくさく

春の

